

令和7年度校内研究テーマ

**グローバルリーダーに求められる
エージェンシーの育成
～自己調整学習を通して～**

1 テーマ設定の理由

- 2 「エージェンシーの育成」を目指す
「自己調整学習」の授業研究とは
- 3 具体的な取組に向けて

令和7年度校内研究テーマ

グローバルリーダーに求められる

エージェンシーの育成

～自己調整学習を通して～

附属刷新プランH26.1.31
1 グローバル人材の育成

【学校教育目標】

グローバルリーダー（Think globally, act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち，人や社会と豊かに関わり，
自己を磨き合う子どもの育成～

[学びに向かう力・人間性等]

○グローバルな視点を持ち世界やふるさとに貢献できる人間性の涵養

[思考力・判断力・表現力等]

○未知の状況にも対応できる思考力，判断力，表現力の育成

[知識・技能]

○生きて働く知識・技能の習得

グローバルリーダーに求められる
エージェンシーの育成



- ☆ 「Think globally」
グローバルに世界規模で考える
- ☆ 「Act locally」
ローカルで行動する

1 テーマ設定の理由

R6年度 4年3組 総合的な学習の時間

「知ろう！考えよう！広げよう！身近にある食品ロス ～食品ロス減らし隊～」



探究課題 身近な食品ロスの問題とその削減に向けて自分たちにできる取組

☆グローバルに世界規模で考える

THE UNITED NATIONS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です



目標12のターゲット=達成目標

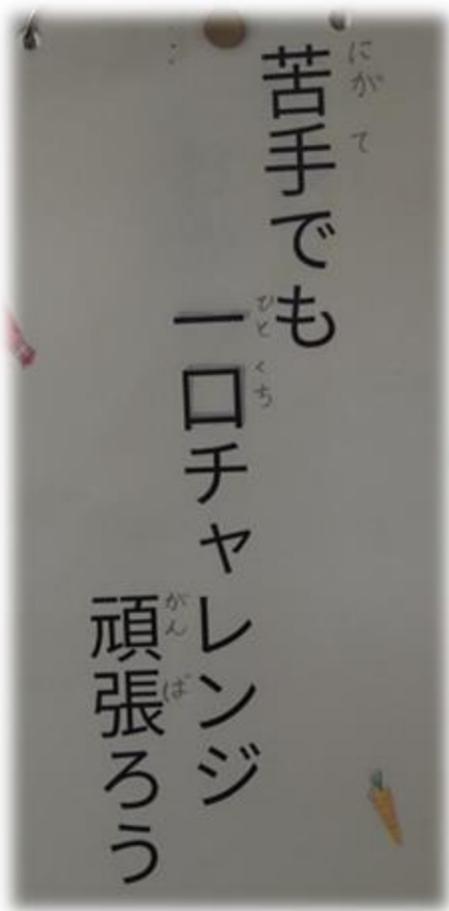
12-3

2030年までに、お店や消費者のところで**捨てられる食料（一人当たりの量）を半分に減らす**。また、生産者からお店への流れのなかで、食料が捨てられたり、失われたりすることを減らす。

食品ロス問題

世界的課題

☆ ローカルで行動する = 自分事として捉える 1 テーマ設定の理由



住んでいる地域や身の回りでできることから実践する

**グローバルリーダーに求められる
エージェンシーの育成
～自己調整学習を通して～**

“エージェンシー”

「変化を起こすために、

自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」

2030年は、より「VUCA」な時代になる!?

「V(volatile)」 変化のしやすさ 「U(uncertain)」 不確実さ
「C(complex)」 複雑さ 「A(ambiguous)」 曖昧さ

社会における変化

経済面での変化

個人レベルでの変化

ウェルビーイング

(仕事・健康・教育・住居・環境)

~~「変わりゆく社会にどう対応していくか」という受動的姿勢~~

「どのような社会を作り上げていくか」という能動的な姿勢

社会における変化

- ① **「移民の増加」**
 - 他言語を話す子供の増加
 - 様々な背景を持つ子供の増加
 - 学力格差
- ② **「地球環境の変化」**
 - 温室効果ガスの影響による「水不足」「農業生産の減少」「栄養失調」「生物種の大量絶滅」
- ③ **「自然災害の増加」**
 - 地震・津波・洪水・台風・干ばつ・火山の噴火・
- ④ **「政府に対する信頼の低下」**
 - 各種の法令や様々なルールを守ろうとする意識が失われる可能性
- ⑤ **「テロやサイバー犯罪の増加」**
 - サイバー犯罪の被害者になるリスクが約85%

経済面での変化

- ① **「経済的な格差の拡大」**
 - 労働者の賃金低下、資本家に収入が集中
- ② **「雇用のオートメーション化」**
 - 人的労力に頼らず作業ができること
 - <メリット>
 - ・人員削減（人件費も削減）
 - ・ミスの減少
 - ・危険な場所での作業が可能 等
 - <デメリット>
 - ・購入や維持に費用がかかる
 - ・管理者が必要・故障の恐れ 等
- ③ **「失業率」**
 - 様々な業務のデジタル化

個人レベルでの変化

- ① **「家族の形態の変化」**
 - 高齢化（日本の2100年の平均年齢47歳予想）、事実婚の増加等、従来とは異なる形の家族の下で生まれたり育てられたりする子供の増加
- ② **「肥満や自殺の増加」**
 - 生活の質の低下、死亡リスク
- ③ **「政治への市民参画の低下」**
 - 投票率の低下により、市民が社会を変えるための重要な機会を放棄している割合が高い

計画の性格

「大分県長期総合計画」の教育部門の実施計画であり、当該部門の内容と合わせ、教育基本法第17条第2項に基づく「教育振興基本計画」

計画の期間 令和7年度（2025年度）～令和15年度（2033年度）〔9年間〕

◆教育改革の経緯

- 教員採用選考試験等をめぐる不祥事(H20)を踏まえた、教育行政システム改革や学校改革
 - ▶教員採用選考試験と管理職選考の見直し、人事管理システムの導入、教職員人事の一元化
 - ▶校長のリーダーシップの下、全ての教職員が目標達成に向けて組織的に教育活動に取り組む「芯の通った学校組織」の構築 など
 - 学校における働き方改革や校務のデジタル化など、現代的課題に対応した改革
- 学校の課題解決力の向上、学力や体力など**子どもの力の向上**
- **教育を取り巻く時代の潮流も踏まえ**、これまでの取組の継続・深化とともに、**複雑・困難化する教育課題への的確な対応**が必要

◆時代の要請や潮流の変化

- 人口減少や産業構造の変化に対応した**持続可能な社会の創り手の育成**
- 教育を通じた個人の幸せとより良い社会（ウェルビーイング）の実現**
- 先端技術を活用した教育DXの推進
- 多様性を認め合う誰一人取り残されない社会の実現
- 発生が懸念される大規模自然災害や事件・事故への対応

基本理念

変化の激しい社会を生き抜く力と意欲を育む「教育県大分」の創造

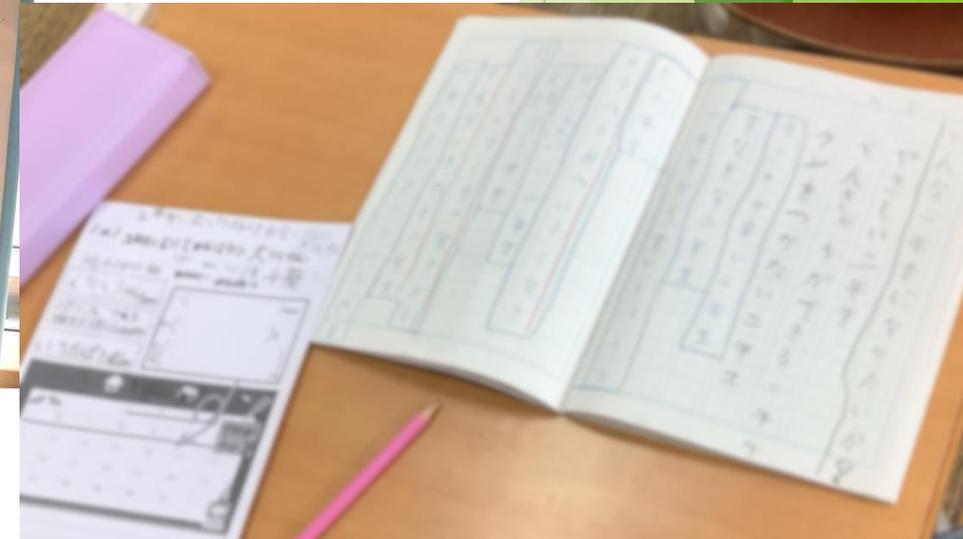
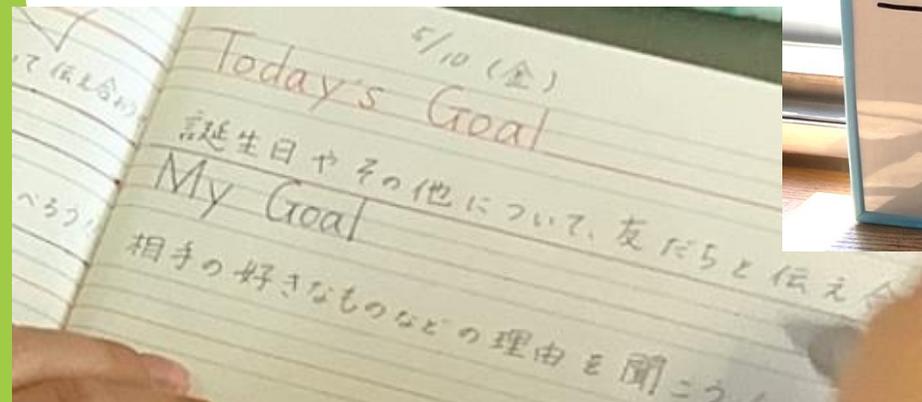
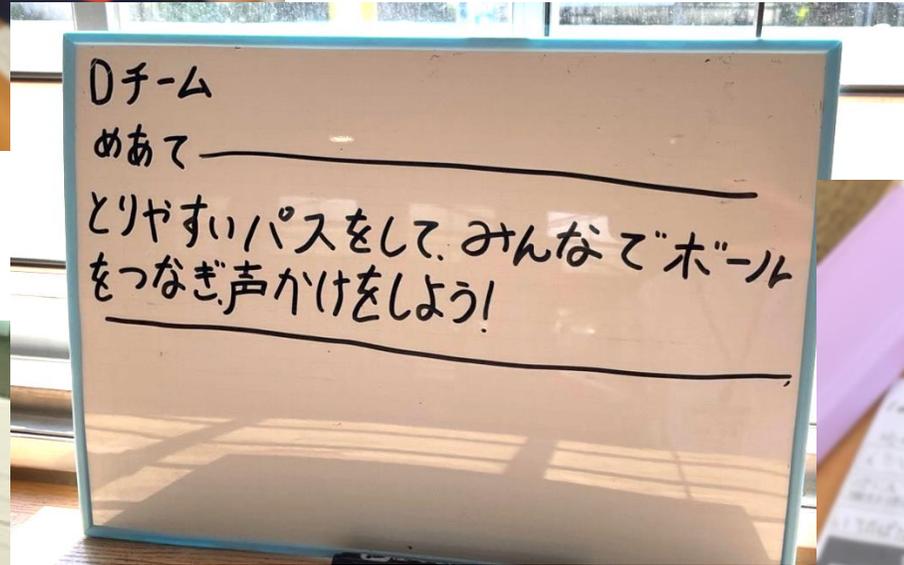
- ⇒ 全ての子どもたちが、変化が激しく将来の予測が困難な社会を生き抜くことができるよう、「大分県長期総合計画」に基づく**7つの基本目標**の下、**20の施策**を計画的・総合的に推進
- ⇒ 基本理念の実現に向け、全施策を貫く**重点視点**として「**『リアル×デジタル』の最適な組合せによる教育効果の最大化**」を設定
 - ※1人1台端末やAIなどの先端技術を積極的に活用し、リアル（対面による授業や体験活動）とデジタルを適切に組み合わせることにより教育効果の最大化を目指す

◆施策の総合的推進のために必要な視点

- 人権教育
- インクルーシブ教育
- 持続可能な開発のための教育（ESD）
- グローバル人材育成
- 誰一人取り残さない学びの実現
- 学校における働き方改革
- 県民総ぐるみの教育

「自分で目標を設定し」

1 テーマ設定の理由

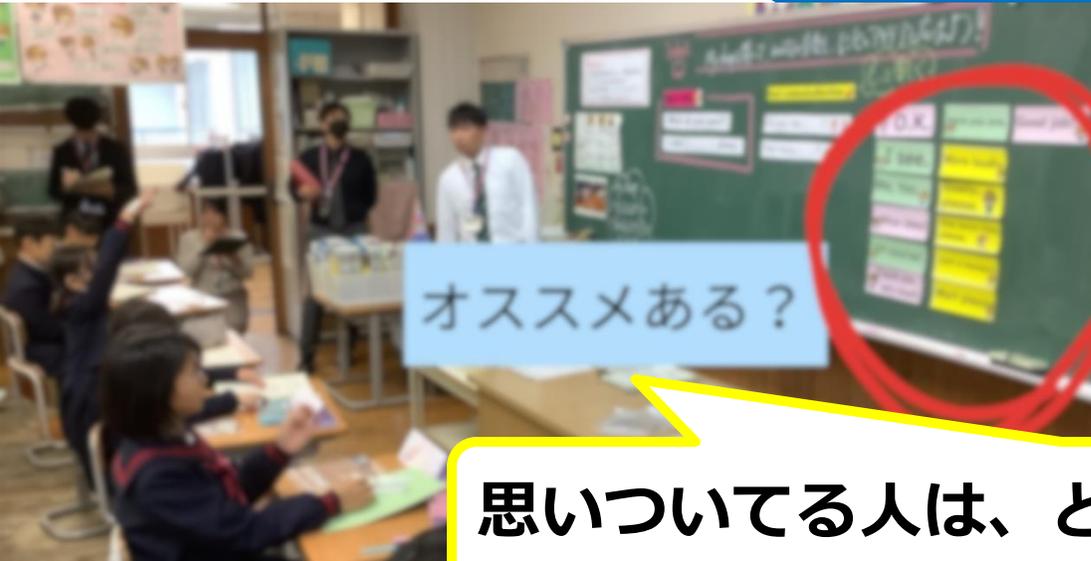


「自分で目標を設定し」



この単元では〇〇な力を付けたいから、
こんな順番で勉強していききたいな！

前回、あの方法だとうまくいかなかったから、
今日は□□の方法でやってみよう！

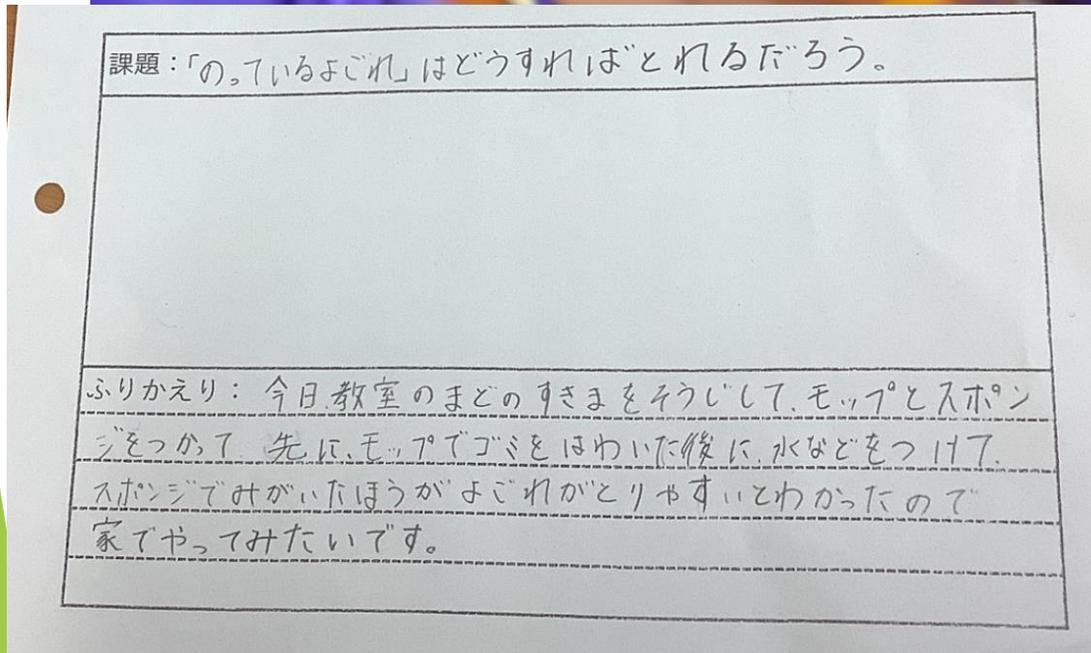
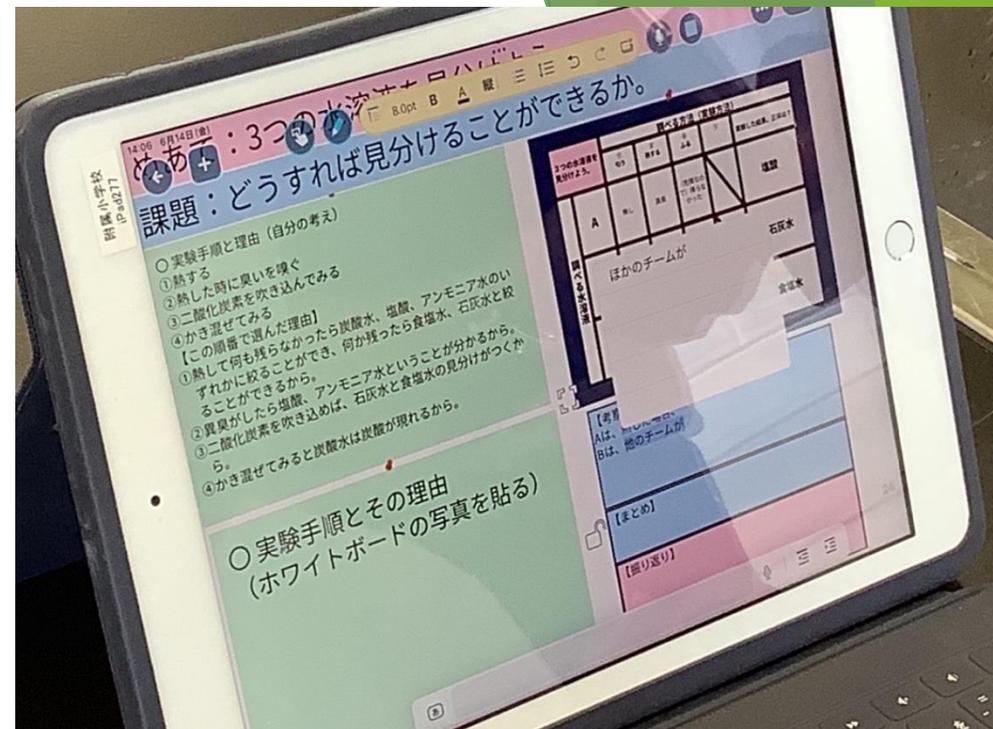
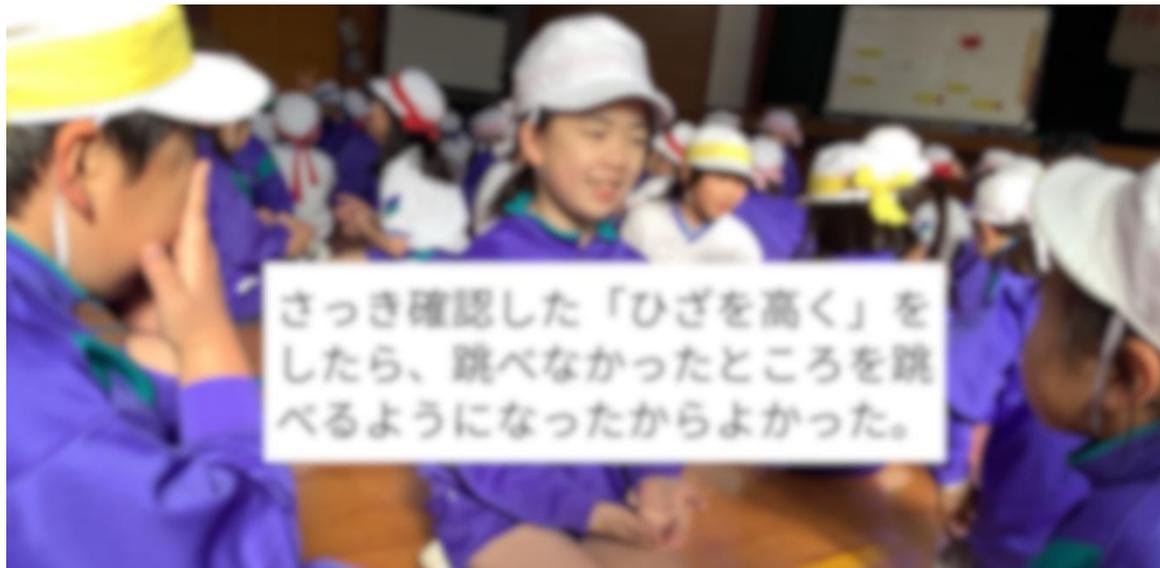


どうしたらいいか
思いつかない...。

思いついてる人は、どんな方法を思いついてる？



「振り返り」



「振り返り」



今日は、この方法を使ってまとめるととてもまとめやすかったから、次も使おう！

インターネットは大分市の情報が少なかったから、地域のことを詳しく調べるには別の方法がよさそうだな。

友達と話すと、新しい発見があったから、次の時間も困ったら友達に聞いてみよう！

今日の1時間で、どんなことが成長した？

うまくいった人は、何が良かったんだろうね？
うまくいかなかった人は、どうしてだと思う？

次はどのように学習すると、単元の目標達成に近づけそうかな？

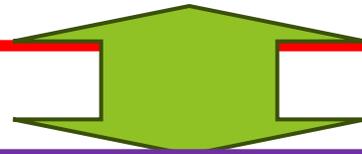


「責任を持って行動」

「責任を持って」

→ “当事者” ・ “自分事” として考える

「自分には何ができるか」



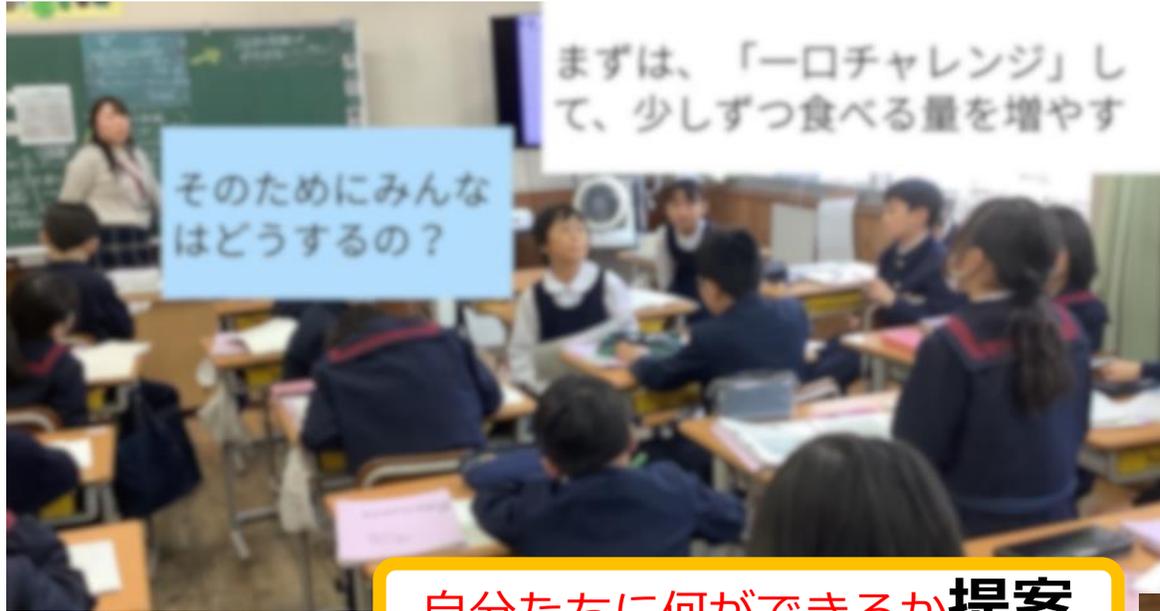
なんとなく行動する。

人には言うけど、自分はしない。

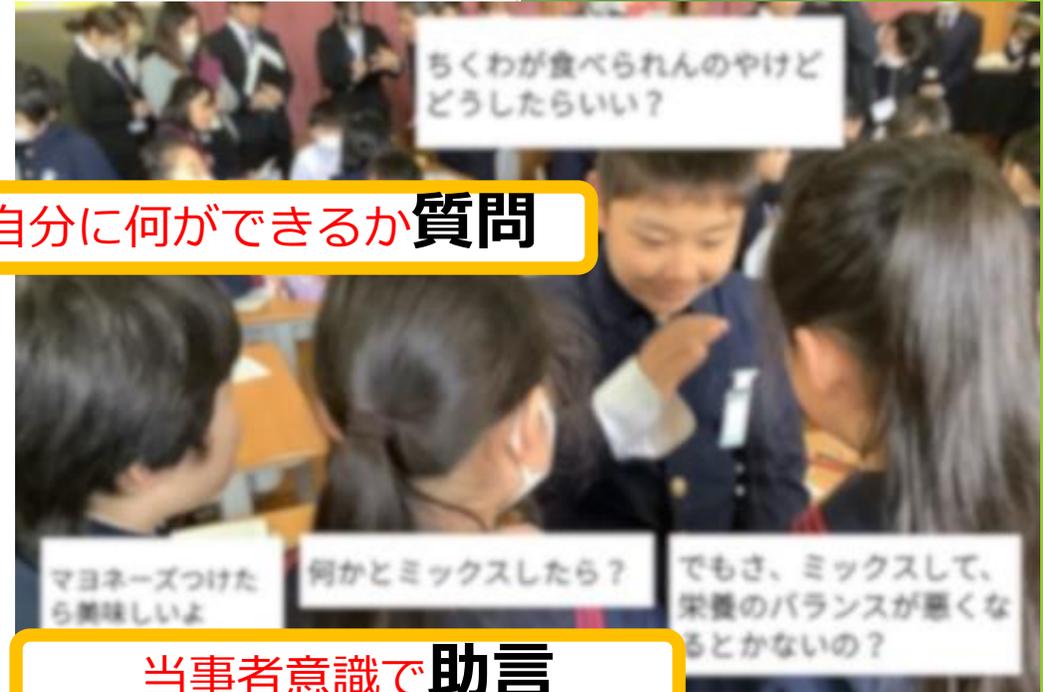
自分には関係ない

責任を持ってない

「責任を持って行動」



自分たちに何ができるか **提案**



自分に何ができるか **質問**

当事者意識で **助言**



自分たちは何をすべきか **相談**

社会における変化

① 「移民の増加」

- 他言語を話す子供の増加
- 様々な背景を持つ子供の増加
- 学力格差

② 「地球環境の変化」

経済面での変化

① 「経済的な格差の拡大」

- 労働者の賃金低下、資本家に収入が集中

② 「雇用のオムニブレン化」

個人レベルでの変化

① 「家族の形態の変化」

- 高齢化（日本の2100年の平均年齢47歳予想）、事実婚の増加等、従来とは異なる形の家族の下で生まれ育ち育てられ育つ子供

“エージェンシー”

「自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」

④ 「政府に対する信頼の低下」

- 各種の法令や様々なルールを守ろうとする意識が失われる可能性

⑤ 「テロやサイバー犯罪の増加」

- サイバー犯罪の被害者になるリスクが約85%

③ 「失業率」

- 様々な業務のデジタル化

- 投票率の低下により、市民が社会を変えるための重要な機会を放棄している割合が高い

ウェルビーイング

(仕事・健康・教育・住居・環境)

グローバルリーダーに求められる
エージェンシーの育成
～自己調整学習を通して～

“自己調整学習”

「学習者が、メタ認知、動機づけ、行動において、
自分自身の学習過程に能動的に関与していること」

“エージェンシー”

「自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力」

自己調整学習のイメージ

《振り返り・自己省察》

「自己評価」 「原因の分析」 「方略の修正」



《行動・遂行コントロール》

「モニタリング（現状の把握）」
「コントロール」 「注意の集中」



《見通し・予見》

「目標設定」 「興味関心」 「自己効力感」



自己調整学習の授業のイメージ

見通し

「学習計画」
「選択・決定」

行動

「考えを形成」 「調査」
「実験」 **(個別)**

↓
「情報共有」 **(協働)**

↓
「再選択・再決定」 **(個別)**

振り返り

「メタ認知」
「変容」
「新たな課題発見」

導入



展開



終末

1 テーマ設定の理由

グローバルリーダー（Think globally、act locally）の育成
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、
自己を磨き合う子どもの育成～

①各教科・領域の授業研究

グローバルリーダーに求められる

イメージメンターの育成
学習を通して

二つの柱

主体的に学びを
進めていくためには...

「わからない」「でも…」が自覚かつ表出できる、安全・安心な学習環境

②学級経営

1 テーマ設定の理由

①本校児童に付けたい力（職員アンケート）

- 「情報を活用して、考えを具体的に伝える力」 「有言実行」 「対話」
- 「**自ら学び**、他者と学びを分かち合う」 「学びを**つなぎ生かす**力」
- 「**何が自分でできるか判断**」 「**目標に向かって努力**」 「**実行する力**」
- 「**自分で考える**」 「寛容」 「**持久力**」 「**学び合う**」 「**振り返りの充実**」
- 「個別と協働の両輪」 「個別最適」 「**省察**」 「**自分事**」 「**見通し**」
- 「**自己調整**」 「**自己指導**能力」 「**メタ認知**」 「自分の学習を**自分で調整**」
- 「**動機づけ**」 「**学習方略**」 「**判断**する力」

②R6年度 授業観察結果より

B 授業 展開	まとめ 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対応した適切なまとめとなっているか。 ・習得した学びを振り返ったり、次時への学びを意識したりできる内容になっているか。 ・振り返りの視点を与えているか。 		
	時間配分設定 ファシリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程における時間配分は適当か。 ・教師がしゃべりすぎていないか。動線や声かけ等は意図的か。 		
	板書 教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的に思考できるように比較や関係付け等の工夫をしているか。 ・子どもの思考の流れに沿った板書や板書の工夫をしているか。 ・ICT（1人1台端末を含む）やホワイトボード、掲示物等の教材・教具を効果的に活用しているか。 		
	きめ細かな指導	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟の程度を掴むための工夫をしているか。 ・特別な支援が必要な子どもへの支援を工夫しているか。 ・C評価の子どもを中心に子どもの思考や困りなどを適切に予測、具体的な支援をしているか。 ・個別最適な学び、協働的な学びを授業作りの視点に入れているか。 		
	自己存在	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思考する時間を確保しているか。 		

R4～R6
「まとめ・振り返り」
「きめ細かな指導」
が課題

1 テーマ設定の理由

③ FUSYO VISION 2024

育成を目指す資質・能力	知（確かな学力）	徳（豊かな心）	体（健やかな体）
知識・技能	言語能力	礼儀	持久力
思考力・判断力・表現力	情報活用能力	公共	自己認知力
学びに向かう力・人間性	調整力	寛容	自律

④ 学習指導要領（総則編）

「児童（生徒）一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り開いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。」

「これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる『メタ認知』に関わる力を含むものである。

1 テーマ設定の理由

⑤文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等のあり方に関する有識者検討会」 論点整理

1. これからの社会像とこれまでの学習指導要領の趣旨の実現状況

(1) これからの社会像

- 人口減少・少子高齢化や地球環境の有限性を踏まえた持続可能な社会づくり
 - ・一人一人が可能性を開花させなければ国が立ち行かない状況
 - ・資源や環境の有限性を踏まえつつ、環境・福祉と経済を両立していく必要性
 - ・コミュニティ存続が現実問題となる中、地域におけるヒト・モノ・カネの循環や幸福・福祉(well-being)の向上も喫緊の課題であり、当事者意識を持った社会の創り手を育てる必要性
- 公正な社会における多様な子供たち一人一人の豊かで幸福な人生の実現
 - ・不登校児童生徒や特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒など、特異な才能を有する子供を含め、教育的支援を要する子供が増加し、子供たちの多様性が顕在化
 - ・子供の貧困など、世帯の経済的困窮等を背景に教育や体験の機会に乏しく、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある子供たちの存在
 - ・こうした多様な子供たちを学校教育の中で包摂し、特定分野に突き抜けた興味や関心を示したり特異な才能を有する子供等も含め、一人一人の強みを伸ばしつつ、より良^く資質・能力を育てていくことにより、豊かで幸福な人生を送ることができるようにすることが重要
- グローバルな協働
 - ・グローバルな競争が進む中であって、国内外で異なる価値観を持った人々と、協働による課題解決も求められる。一方、国際的な分断や対立等も鮮明となっており、インターネットやSNSを通じてアルゴリズムで選別された自分の好む情報のみを取得することになる現象(フィルターバブル、エコーチェンバー)がそうした分断や対立を加速化させているとの見方もある。

- 生成 AI の加速度的発展など変化の加速化・非連続化
 - ・生涯に亘って学び続ける資質・能力がこれまで以上に重要に
 - ・テクノロジーと持続可能な社会の実現が重なる部分で価値を生み出せる社会へ
 - ・既存の情報を整理・分析するだけなら AI の方が有能。AI やデータを十全に使いこなすことは前提としつつ、豊かな人間性を育むこと、個々の情報の意味を理解し問題の本質を問うこと、課題を発見したり設定したりすることの重要性が高まる
 - ・そうした中で得られる質の高い知識が社会をよりよい方向に革新していく重要な基礎や基盤となる
- 前回改訂時に2030年頃の未来として描いた社会像が想像以上の速さで現実化。これを危機と捉える議論に正対しつつ、むしろ未来を切り拓く絶好のチャンスと考える必要。
その際、非連続的な変化が予想される未来に向き合って教育の在り方を考えることと、学校の現在の課題に向き合って連続的な今を生きる子供たちのよりよい学びや幸福を確かなものにしていくこと、よりよい教育を通じてよりよい社会の創り手を育てるという発想のいずれも大事にしながら今後の教育課程の在り方を検討する必要。
- 学校の本質的な役割の再認識
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大の防止のための臨時休業や様々な接触防止の対策等を経る中、学力の保障のみならず、全人的な発達・成長を保障するという役割、他者と安全・安心につながるができる居場所・セーフティネットとしての福祉的役割など、学校が持つ様々な役割が改めて実感を伴って理解された。
 - ・学校は、学年・学級という生活を共にする集団の中で、多様な他者に出会い、共感や軋轢の中で自己を知り、高めるとともに、他者とともにどのように共存するかという、社会を形成していく上で不可欠な人間同士のリアルな関係づくりを子供たち相互の関係で学ぶ貴重な場となっている。
 - ・このような多様な背景を持つ児童生徒が学ぶ場所としての学校の役割は、包摂的で、他者への信頼に基づく民主的・公正な社会を実現していく基盤として一層重要となっており、社会の分断や格差を防ぎ、持続可能な社会の創り手を育てる観点からも更なる充実が必要。この点について考える際、教育基本法、学校教育法等の教育関係法規に加え、令和5年度から施行されているこども基本法の趣旨・内容も踏まえることが重要。

1 テーマ設定の理由

⑤ 「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等のあり方に関する有識者検討会」 論点整理

4. 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程

(1) 現行の「個に応じた指導」の記述と充実の在り方

- 現行の学習指導要領においても、児童生徒の発達の支援の観点から「個に応じた指導」は重要視され、個別学習やグループ別学習など、一定の指導方法の具体例の記載もあるが、令和3年1月26日中央教育審議会答申の趣旨等も踏まえると、学習者自身が主体的に学習を調整していく観点からの記述が不足。
- 子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身につけることの重要性やその中で教師が発揮すべき指導性について、具体的に議論し、位置付けを検討すべき。
- 多様な個性・特性を有する全ての子供に資質・能力を育成する上で子供一人一人を見取り、適切な指導や関わりを行う教師の指導性はより積極的かつ高度なものが求められるし、時には教師が主導することが重要な場面もある。「教師は教えなくてもいい」「全て子供に委ねればよい」といった誤ったメッセージとして伝わることのないよう、最大限の注意を払うべき。

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表出力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1_1 時間完結型

- * 学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- * 学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- * 追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2_板書の構造化

- * 思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3_習熟の程度に応じた指導

- * 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- * 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

4_生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

- * 各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 □ 情報収集 □ 整理・分析 □ まとめ・表出・交流 □ 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
 - ・ 知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
 - ・ 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充



育成すべき資質・能力を見据え、授業の「ねらい」に即したICT活用

子ども主体の学びを支援
情報活用能力の育成

ICTの効果的な活用

- * 各教科等の資質や学習過程を踏まえた活用
- * 子どもの学びを広げ、深める活動で活用（思考の可視化、意見交流、学習の記録等）
- * 子どもの興味・関心、実態に応じた活用



1 テーマ設定の理由

**2 「エージェンシーの育成」を目指す
「自己調整学習」の授業研究とは**

3 具体的な取組に向けて

「AARサイクル」 (学習者視点)

→ 学習者が継続的に自らの思考を改善、行動するための学習プロセス

即時フィードバックによる実践的で短期的な評価と学びに適している。

自己調整学習

「PDCAサイクル」 (経営者視点)

反復的なプロセスを中長期の継続的な改善に適している。

「知識・技能」
「思考力・判断力・表現力」
は、大丈夫？

学習指導要領（総則編）

各教科等の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に留意しつつ、児童の興味・関心を生かした学習指導を展開することが大切である。児童の興味・関心を生かすことは、児童の学習意欲を喚起する上で有効であり、また、それは自主的、自発的な学習を促すことにつながると考えられるからである。この意味で各教科等の指導においては、学習することの意味の適切な指導を行いつつ、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図るとともに、自主的、自発的な学習を促すことによって、児童が学習の目的を自覚し、学習における進歩の状況を意識し、進んで学習しようとする態度が育つよう配慮することが大切である。

具体的には、各教科等の指導において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るとともに、これらの活用を図る学習活動を行うに当たって、児童が主体的に自分の生活体験や興味・関心をもとに課題を見付け、自分なりに方法を選択して解決に取り組むことができるように配慮することが考えられる。

研究主題 グローバルリーダーに求められるエージェンシーの育成	
研究副主題 自己調整学習を通して	
めざす子供像(主題より) ○自分で課題を発見し、目標を設定することができる。 ○課題解決に向けて責任を持って行動することができる。 ○自己を分析して振り返り、次に生かすことができる。	めざす授業像(副主題より) ○児童と(が)、振り返りを参考に見通しを持って学習計画を立てる。 ○個別最適な学びや協働的な学びの中で自己選択・自己決定し、課題解決できるようにする。 ○児童と(が)振り返る。 (学習過程・自己の変容)

めざす子供像

- **自分で課題を発見し、**
目標を設定することができる。
- 課題解決に向けて**責任を持って**
行動することができる。
- **自己を分析**して振り返り、
次に生かすことができる。

研究主題 グローバルリーダーに求められるエージェンシーの育成	
研究副主題 自己調整学習を通して	
めざす子供像(主題より) ○自分で課題を発見し、目標を設定することができる。 ○課題解決に向けて責任を持って行動することができる。 ○自己を分析して振り返り、次に生かすことができる。	めざす授業像(副主題より) ○児童と(が)、振り返りを参考に見通しを持って学習計画を立てる。 ○個別最適な学びや協働的な学びの中で自己選択・自己決定し、課題解決できるようにする。 ○児童と(が)振り返る。 (学習過程・自己の変容)

めざす授業像

- **児童と(が)、振り返りを参考に見通しを持って学習計画を立てる。**
- **個別最適**な学びや**協働的**な学びの中で**自己選択・自己決定**し、課題解決できるようにする。
- 児童と (が) **振り返る。**
(**学習過程・自己の変容**)

FUSYO

VISION

2024



育成を目指す資質・能力	知（確かな学力）	徳（豊かな心）	体（健やかな体）
知識・技能	言語能力	礼儀	持久力
思考力・判断力・表現力	情報活用能力	公共	自己認知力
学びに向かう力・人間性	調整力	寛容	自律

「主体的な」「能動的な」「自ら進む」子供

結果も大切だが、

学習過程（学び方）をより大切にしていく！

1 テーマ設定の理由

2 「エージェンシーの育成」を目指す
「自己調整学習」の授業研究とは

3 具体的な取組に向けて

自己調整学習の授業のイメージ

3年1組（図画工作科）の実践

A (Anticipation)見通し



みんなの今日のこだわりたいポイントは何か？



学習計画

色のむらを無くしたいから綿を増やしたい



見たい時に見ていいよ（先生）



何から始めるんだらう・・・

選択・決定

A (Action)行動



考えを形成（個別）



情報共有（協働）



ひかるさん、やってみてどうだった？（先生）

綿をつけすぎて、少し減らしてる



まともりの状態でくっつけて・・・

再選択・再決定（個別）

R (Reflection)振り返り



みんなのを見たり、アドバイスをもらったらできた

メタ認知・変容

導入



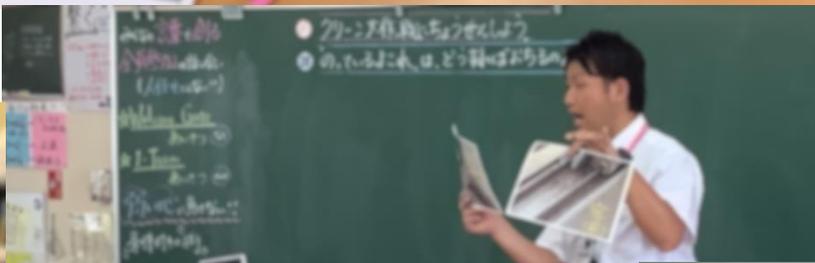
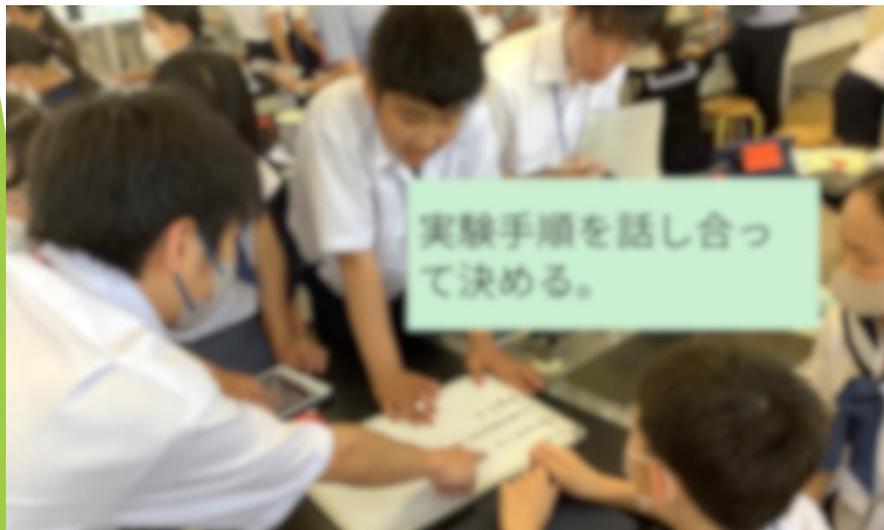
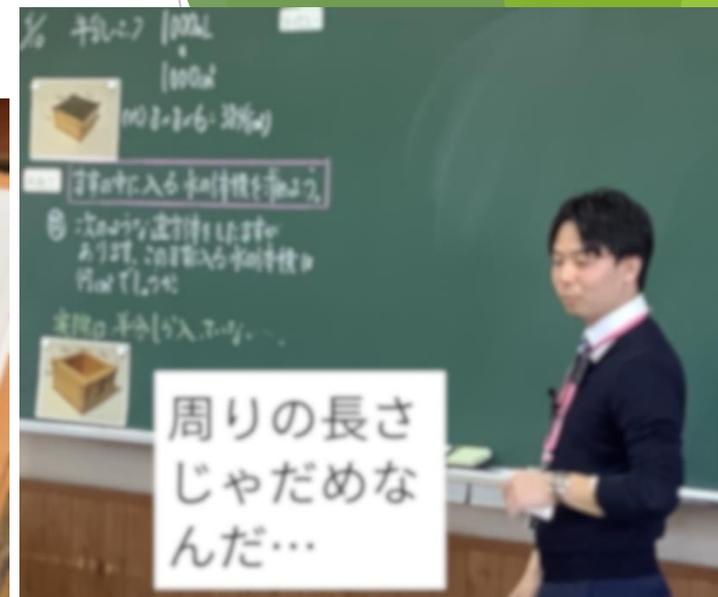
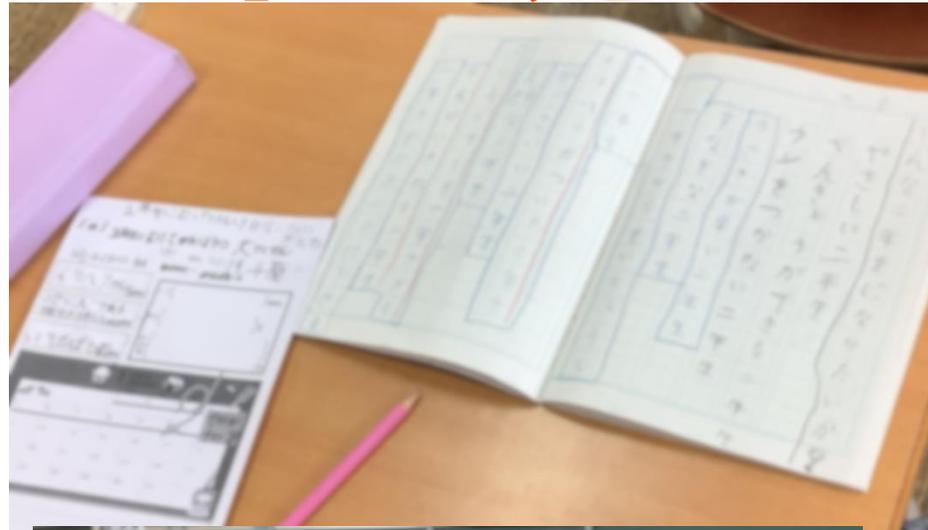
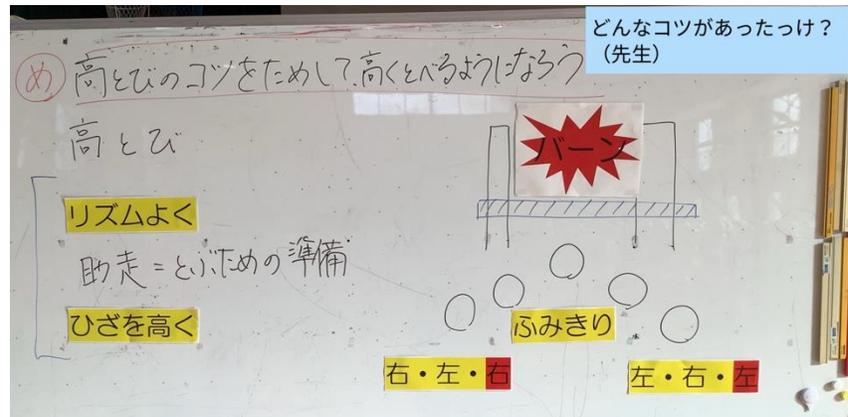
展開



終末

3 具体的な取組について

A (Anticipation) 見通し



A (Actions) 行動



自分が選択した資料（情報）を手掛かりに、課題に迫っていく。



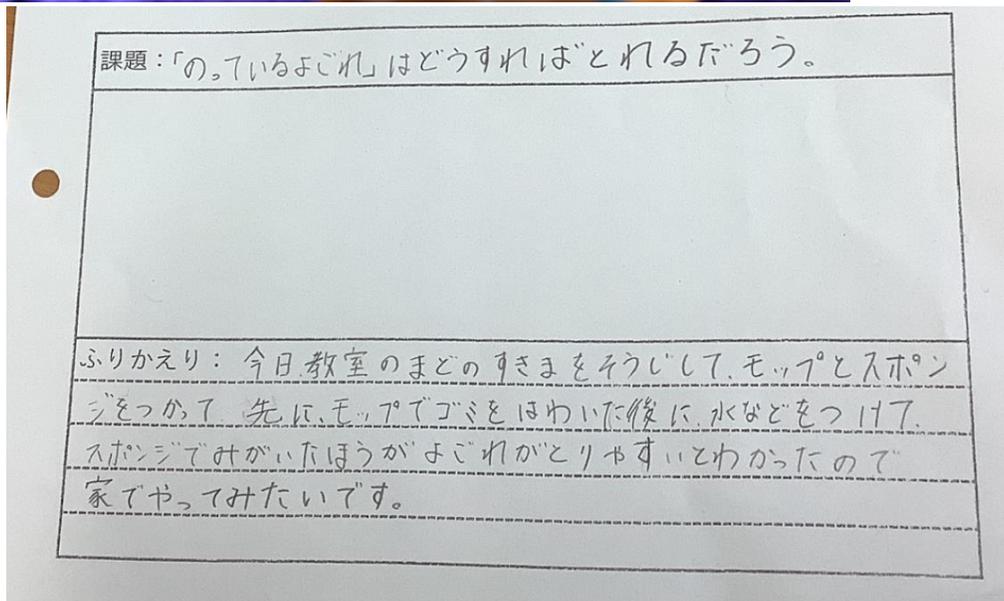
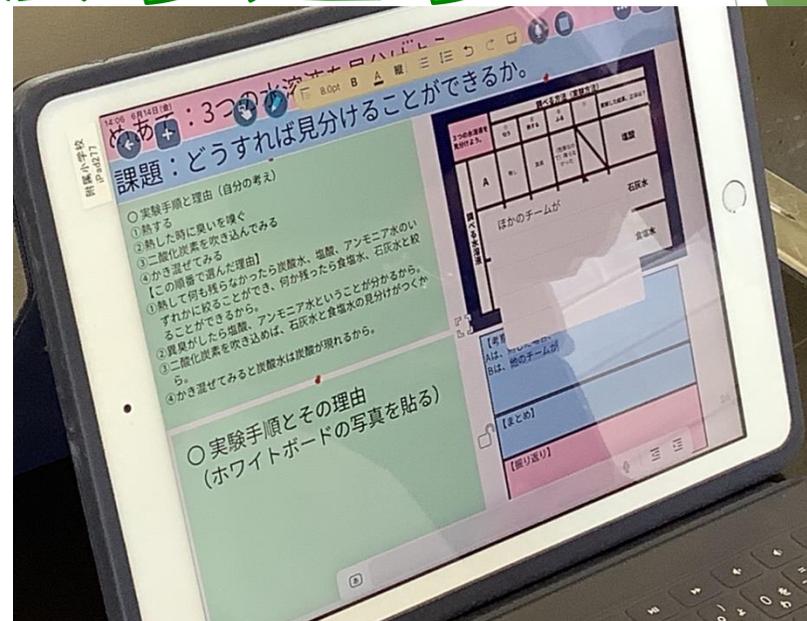
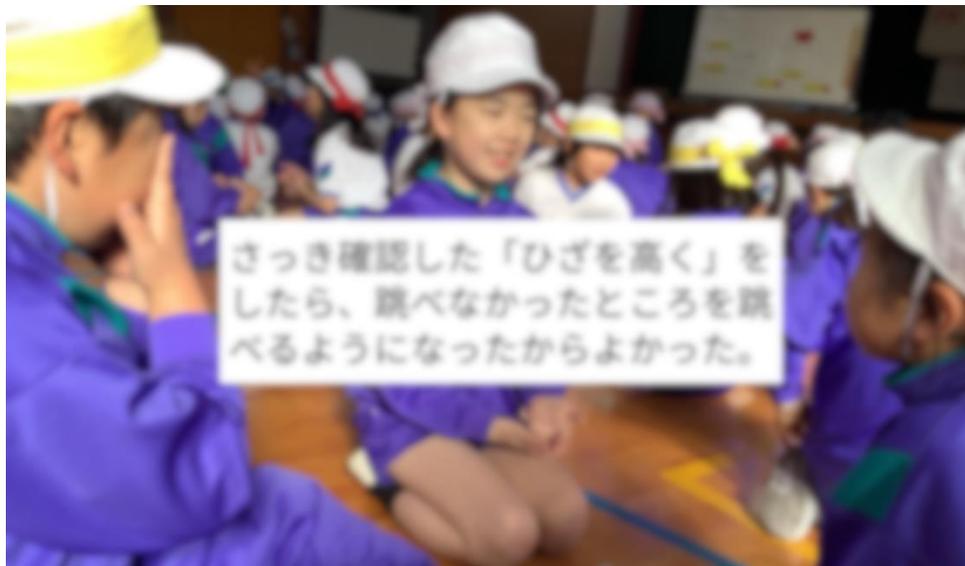
ゆるやかにしたいから、イムカのようにトライアングルをチェーンしたい



図を使ってもいいですか？



R (Reflections) 振り返り



3 具体的な取組について

自己調整学習のイメージ

3 《振り返り・自己省察》
「自己評価」「原因の分析」「方略の修正」
うまく登れたかな？
なぜ、上手く登れたかな？
次は、どうしようかな？

R (Reflection) **振り返り**

2 《行動・遂行コントロール》
「モニタリング（現状の把握）」「コントロール」「注意の集中」
順調に登ってきたかな？
この先登れそうかな？
ルートはいいかな？

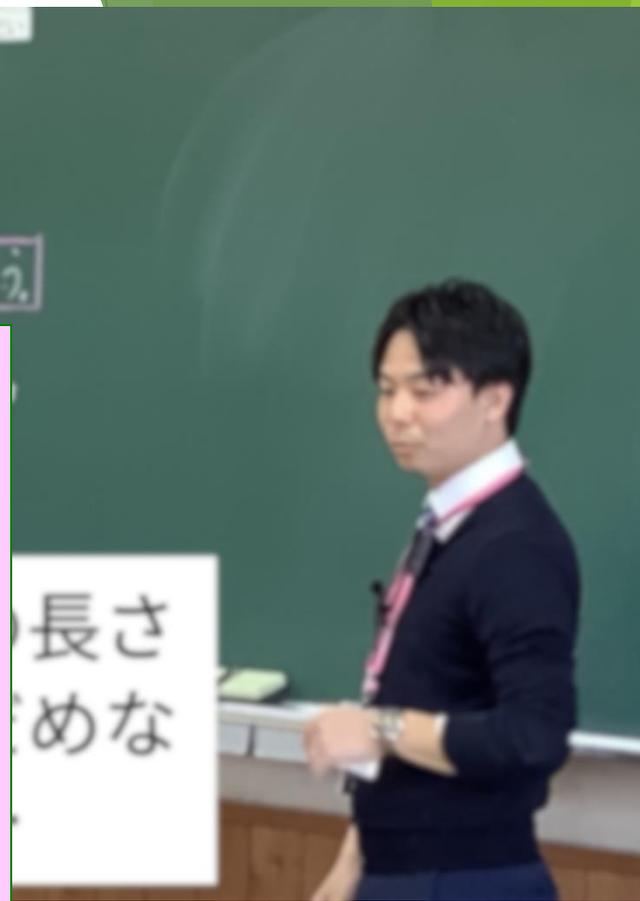
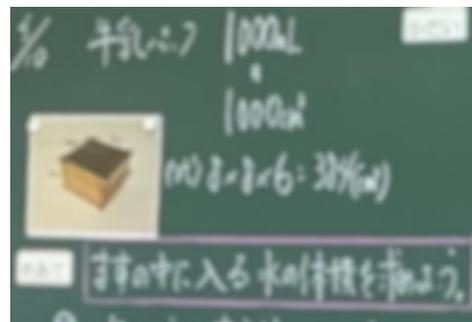
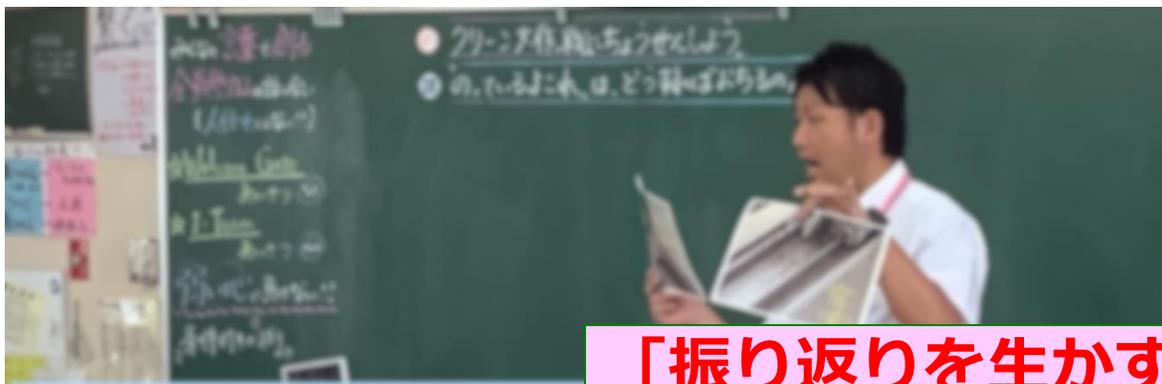
A (Action)

1 《見通し・予見》
「目標設定」「興味関心」「自己効力感」
この山、登りたいな。きっと登れる。
どのルートを通ればいいかな？
どんな装備が必要かな？

A (Anticipation) **見通し**

AARサイクル

主体的に学びをつなぎ生かす子供



「どんな道具で、
こんなふうにするの
きれいになるんじや
を話し合おう！」

「振り返りを生かす」

前回〇〇だったから今日は□□するとう
まくいそようだ。

「可視化」

あとで振り返りやすいようにノートやホ
ワイトボード、ロイロノートに書く

「選択・決定」

私（私たちの班）は、めあて達成のため
にこの方法で学ぼう

→自分事・当事者意識

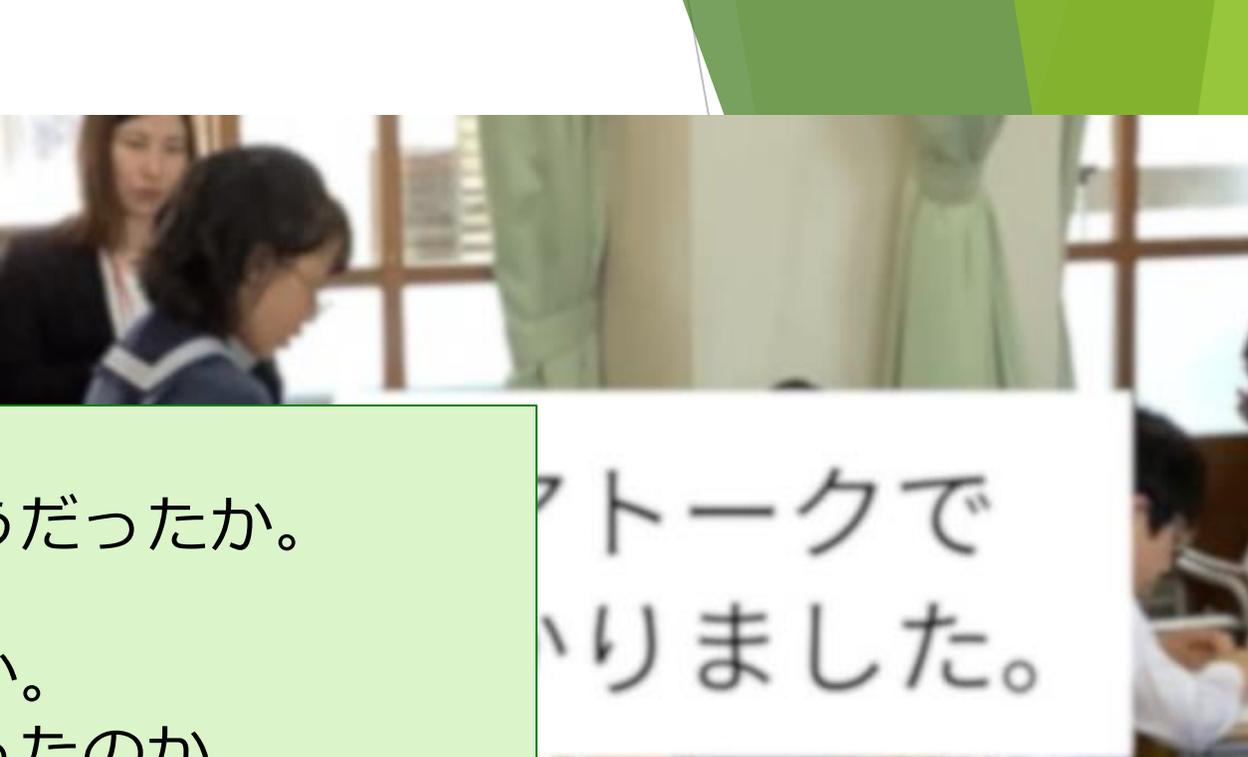


みんなの今日のこだわりたい
ポイントは何かな？

見通し

3 具体的な取組について

A (Anticipation)



「メタ認知」

今日の自分の学びはどうだったか。
変容できたのか。
なぜ、うまくいったのか。
なぜ、うまくいかなかったのか。

「次に生かす」

次はこのような方法ですると単元のめあてに向かっていけそうだ



みんなのを見たり、
アドバイスをもらったらできた

振り返り

R(Reflective)

3具体的な取組について

研究の視点・内容→事後研での**討議の柱**

「AARサイクル」を意識した授業改善

- 視点①：児童が課題解決に向かって、**見通し**を持つことができるようにするための手立て
- 視点②：学びの過程と自己の変容を自覚し、児童自ら学びを進めるための**振り返り**の工夫

- 「個別最適な学びと協働的な学び」 (東洋館出版社 奈須 正裕)
- 「個別最適な学び×協働的な学びを実現する学級経営」
(明治図書 赤坂 真二)
- 「教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと」
(河出新書 汐見 稔幸)
- 「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来
エージェンシー、資質・能力とカリキュラム」
(ミネルヴァ書房 白井 俊)